



冬休みすいせん図書(3・4年)



令和4年12月 杉教研学校図書館部

もうすぐ冬休みです。いつもより少し長い本を読んでもみるのはいかがですか。
部屋をあたたかくしてゆっくり読書もいいですよ。

『すずりくん 書道具のおはなし』

青柳 貴史:作

あかね書房

書道セットに入っている筆、紙、墨、すずり。昔から文字を書くために使われてきた道具たちは、文房具の中でも“宝物”とされているんです！それぞれの役割、材料、作り方などをすずりくんたちが紹介します。この本を読むと筆で文字を書きたくてうずうずしてくる…かも！？

『コロキパラン』

たかどの ほうこ:作 のら書房

コロキパラン……キローポン……公園に流れるオルゴールの調べは、きれいで、楽しくて、おとぎ話のようです。広い公園のまん中には、バレンタインのチョコレートを売るお店が出ました。オルゴールの音に誘われて、どんなお客さんがやってくるでしょう。

『夕ぐれ時のふしぎ』

堀米 薫:作

国土社

夕ぐれ時は、昼と夜のさかいめで、あの世とこの世がまじり合う時、ふしぎなことが起こることもある…。この本にはゆうれいや妖怪といったちょっとこわいものが出てくるお話や魔法のようなお話など、夕ぐれ時が、気になる短くて読みやすい7つの話が入っています。

『12月の夏休み』

川端 裕人:作

偕成社

「12月」なのに「夏休み」?! 赤道をはさんで位置が日本と反対にあるニュージーランドを舞台にした物語です。10歳のケンタと7歳のミノリの兄妹は、写真家のパパを追って旅に出ます。絵だけでなくニュージーランドに暮らす動物の写真も出てくるとても興味深い1冊です。

『そらとうみとぐうちゃんと』

椎名 誠：作

光村図書出版

僕のおじさんはいろいろな所を旅したことがあります、おもしろい話をしてくれる。大きなナマズや氷の惑星なんてうそみたいな話もある。からかわれたのかと思っていたら、外国から手紙が届く。そこには…。教科書にも出てきた話と、作者の解説が付いた冒険の本。あなたの周りにぐうちゃんはいますか？

『こども「徒然草」』

齋藤 孝：作

筑摩書房

古典というとむずかしいと思われがちですが、そこに書かれていることは人生の心がまえになるとても大切なことです。それだけでなく、仁和寺のお坊さんの失敗話など、なかなか面白いことも書かれています。兼好法師が 700 年くらい前に「つれづれなるままに」書いたお話を齋藤孝さんがやさしく解説します。

その他のおすすめ本

本の名まえ	作者	出版社
こずえと申す	吉田 道子	ポプラ社
数字でわかる！こども SDG s	秋山 宏次郎	(株)カンゼン
どっちでもいい子	かさい まり	岩崎書店
10 歳からの学校では教えてくれない 健康とからだ	野口 緑	池田書店
しあわせの牛乳	佐藤 慧	ポプラ社
リサイクルプラネット リサイクルが地球の資源を救う！	アンナ・クレイボーン	評論社
すごすぎる天気の本鑑	荒木 健太郎	KADOKAWA
植物ないしょの超能力 学校では教えない草花のヒミツ90	田中 修	小学館
だいじょうぶくん	魚住 直子	ポプラ社
和ろうそくは、つなぐ	大西 暢夫	アリス館